

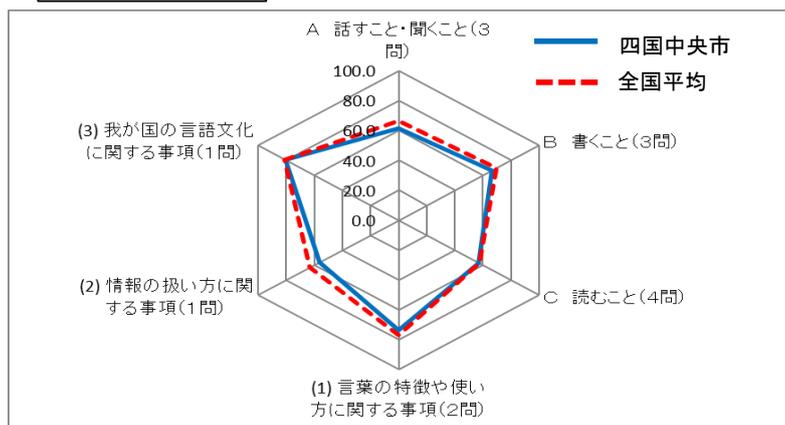
令和7年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の小学生の状況についてお知らせします。

## 1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の( )内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科では、昨年度と比較して全国平均との差が小さくなっている項目もありましたが、国語科、算数科、理科において、全国平均を下回っています。それぞれの分析は以下の通りです。

### 国語

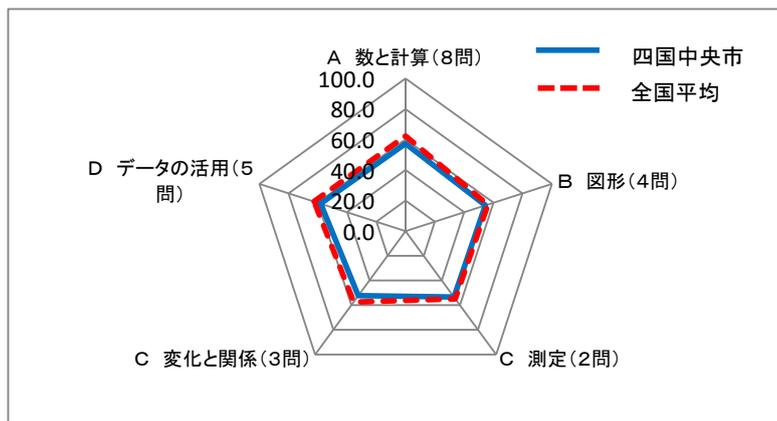


#### 【国語分析】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」は昨年度と比べて全国平均との差が小さくなっています。全国平均を下回るものの、昨年度の分析から、各校で、ICTの有効活用によるドリル学習だけでなく、従来実際に漢字を書く活動と合わせて取り組むことで、基礎・基本の徹底に努めてきた成果が見られました。

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題の正答率が低くなっています。授業の中で、複雑な事柄などを分解して捉えたり、類似する点を基にして他のことを類推したりする学習に取り組んでいきます。あわせて、図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする学習も進めていきたいと思えます。

### 算数

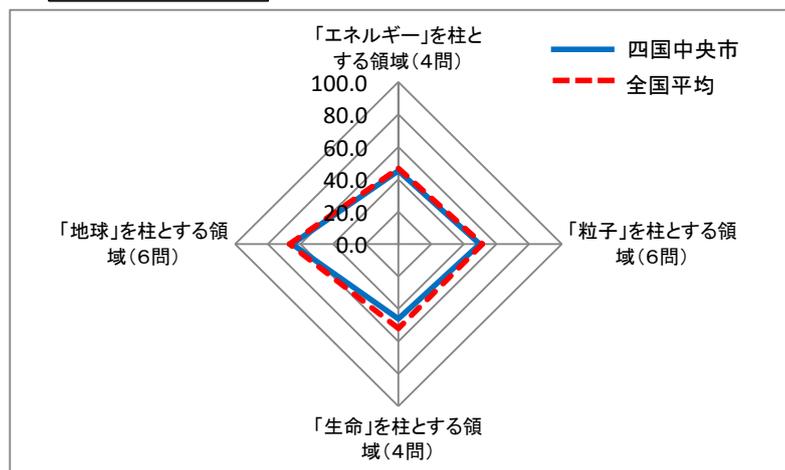


#### 【算数分析】

全ての領域で、全国平均を下回っています。「図形」領域においては、全国平均との差も小さく、授業の中で、実物进行操作する活動とICTを活用した視覚的に捉える活動のベストミックスで授業を展開し、図形に対する具体的なイメージを掴めるよう学習を進めてきた成果が見られます。今後も続けて取り組んでまいります。

「変化と関係」の領域に課題が見られました。日常の事象における二つの数量の関係に着目する学習を取り入れ、日常生活とリンクさせて考える学習を進めていきたいと思えます。また、考え方を式や言葉で説明する力も身に付けるため、端末やホワイトボードを活用して、自分の考えを分かりやすく伝える活動にも一層力を入れ、表現力の育成に努めていきます。

### 理科

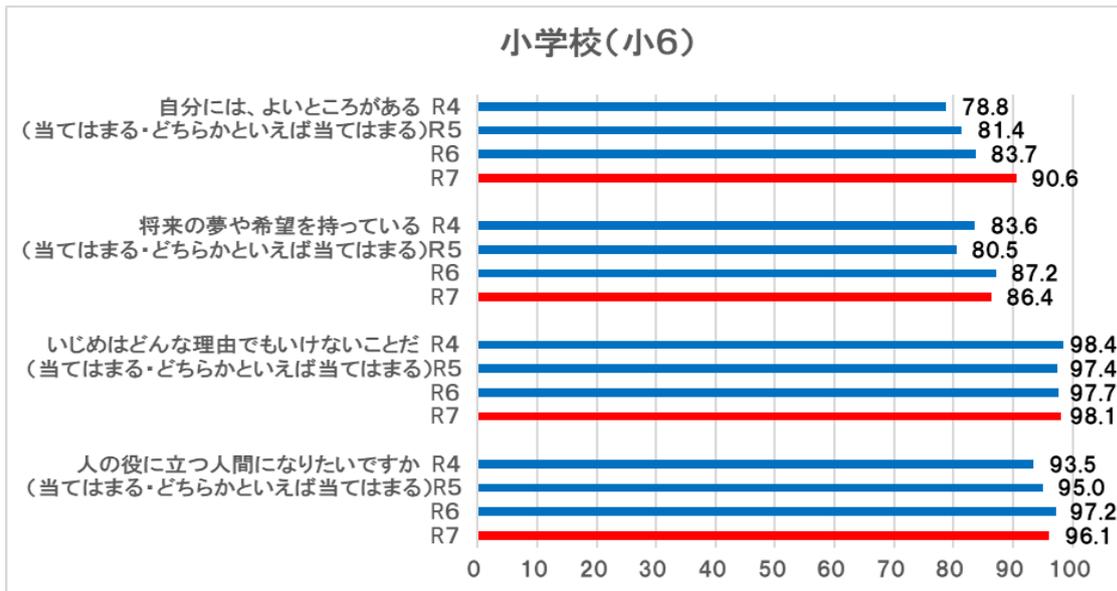


#### 【理科分析】

今年度は理科が調査されました。理科では、四つの領域で全国平均を下回りましたが、電磁石や水の性質についての理解が全国平均を上回り、実際に自分たちで実験を行った学習内容について着実に身に付いていると考えられます。

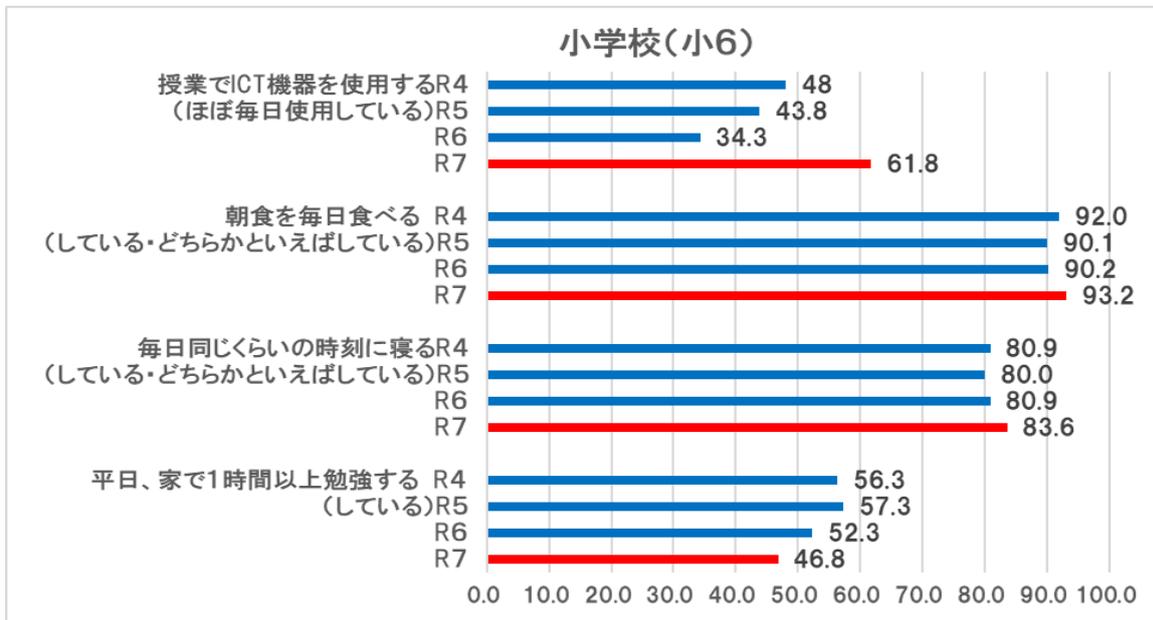
しかし、令和4年度にも課題として挙げられていた「観察などで得た結果を他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つ問い」については、依然として課題が見られました。今後も1人1台端末を有効活用し、他者の意見を分析、解釈し、自らの考えを記述する活動を多く取り入れた授業改善に一層力を入れて取り組んでいきます。

## 2 心の状況



## 3 生活習慣の状況

※ 生活の中にICT機器が大きく関わってきていることと、GIGAスクールの実現による確かな学力を基盤とした未来を拓く力の育成を目指している本市として、授業でのICT活用についての項目を掲載しています。



### 【分析】

心の状況については、「自分にはよいところがある」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目が、昨年度より上昇しています。特に、「自分にはよいところがある」では、令和4年度以来、最高値となっており、子どもたちの「自己有用感、自己肯定感」が高まっていることが分かります。今後も、更に子どもたちが豊かな心を持ち、友達の良いところを認め合い、励まし合う活動を進め、自他を大切にする生き方ができるよう努めてまいります。

生活習慣の状況では、「毎日同じ時刻に寝る」「朝食を毎日食べる」は、ご家庭のご協力により高い数字となっています。しかし、「平日、家で1時間以上勉強する」は、昨年度に引き続き、全国平均と比べても改善が必要な項目となっています。児童にとって取り組んでみたい課題や1人1台端末を活用した学習等を提示することで、楽しく意欲的に家庭学習に取り組む児童の育成に努めてまいります。

「ICT機器を授業で毎日使用している」の割合が令和4年度以来、最高値となっております。授業の中で効果的にICT機器を取り入れていこうとする結果と捉えます。今後も、「アナログとデジタルのベストミックス」により、それぞれの良さを生かした、子どもたちにとって「分かる・できる」授業づくりを行ってまいります。